

鹿大医学生ら  
地域医療学ふ  
さつまで農家民泊

鹿児島大学の医学部  
や歯学部生らが地域  
医療を学ぶトレーニ  
ングキャンプが9月  
26、27日、さつまで  
あった。農家民泊や地  
域診断を盛り込んだ  
実習で、教員を含む  
計26人が参加。住民ら  
とも交流を深め、地域  
医療の現場を体験し  
た。

同大離島へき地医療  
人育成センター主催で  
6回目。同町では昨年



シイタケのほだ木を並べる医学部生  
や教員  
＝さつまで町時吉

に続き2回目。第一薬  
科大学（福岡市）の学  
生2人と吉武毅人教授  
らも初参加した。

学生たちは初日、町  
消防本部職員や歯科医

（犬塚政志）

師らの講演を聴講。午  
後は4班に分かれ、そ  
ば打ちや竹アートのな  
どを体験した。西之原生  
さん（74）の農家民宿で  
は、学生ら6人が台風  
15号で倒れたシイタケ  
のほだ木を並べ直す作  
業に汗を流した。翌日  
は住民から病歴などを  
聞き取った。

同センターの大脇哲  
洋教授は「今回の経験  
を将来の医療活動の  
糧にしてほしい」。鹿  
大医学科3年の大漣玄  
徳さん（21）は「地域の  
人がいつも通り生活  
できるような病気にいち  
早く気づける医師にな  
りたいと感じた」と話  
した。